

PC必携化により学生が日常的にPCを使える環境を整備 学生のスキルが向上し、コロナ禍における遠隔授業も難なく実施

久留米工業大学 様

SCSKが必携PCの機種選定から調達、販売、
セットアップまでを担うことで教職員の負荷を大幅に軽減

事例のポイント

■ 久留米工業大学様の課題

- PC必携化を推進し、学生のPCスキルを高め産業界の要望に応えたい
- 教員がPCの調達から販売まで行うノウハウがない
- 販売後の故障や問い合わせのすべてに対応するリソースがない

■ 課題解決の成果

- 必携PCの導入を成功させ、学生がPCスキルを学ぶ環境が整備された
- 学生のスキル向上によりコロナ禍における遠隔授業も難なく実施できた
- 学内にサポート窓口が設置されたおかげで、教職員の負荷が大幅に軽減

■ 導入ソリューション 学生向け必携パソコン販売サービス(企画支援/販売/保守)

「販売、保守、分割払い、保険など、SCSKの用意したサービスの枠組みに丸ごと乗っかる
だけで、スムーズにPC必携化が実現しました。実績あるSCSKに依頼して正解でした」

工学部 情報ネットワーク工学科 教授 博士(芸術工学) 河野 央 氏

背景・課題

学生のスキル向上を目指し
PC必携化を検討するも
ノウハウもリソースもない

「規模じゃない。希望のスケールを誇りたい。」をモットーに、小規模大学だからこそできる、地域の課題解決を目指した研究や教育を実践する久留米工業大学(以下、久留米工大)。2020年4月には、来るべきAI社会に対応できる技術者の輩出を目標に、「AI応用研究所」を設立。数理・データサイエンス・AI分野を通貫する独自の教育プログラムを通じ、久留米地方、筑後地方の産業が抱える課題の解決へ貢献することを目指している。2021年8月にはAI教育プログラムが文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教

育プログラム認定制度(リテラシーレベル)MDASH Literacy」に認定され、さらにAIを用いた課題解決型学習が「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)MDASH Literacy+(プラス)」に認定された。MDASH Literacy+は、全国でも11件しか認定されていないもので、同大学の先導的で独自の工夫・特色が評価されたかたちだ。

さて同大学は2015年度に「PC必携化ワーキンググループ(WG)」を立ち上げ、2018年度の入学生からPCの必携化をスタートさせた。その背景には、近隣の大学でPC必携化が進められ、一定の教育効果を上げられていたこと、産業界からPCの使える学生が要望されていたことの2つがあった。WGのリーダーを務めた工学部 情報ネットワーク工学科 教授の河野央氏は次のように語る。

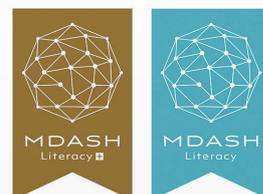
お客様プロフィール



学校法人 久留米工業大学

所在地：福岡県久留米市上津町2228-66
URL：https://www.kurume-it.ac.jp/

1966年、久留米工業学園短期大学として設置され、1976年に久留米工業大学と改称。現在は、工学部の機械システム工学科、交通機械工学科、建築・設備工学科、情報ネットワーク工学科、教育創造工学科の5学科と、大学院の工学研究科をようし、約1,500名が久留米市のキャンパスで学ぶ。「人間味豊かな産業人の育成」を建学の精神とし、これに基づく「知を磨き」「情を育み」「意を鍛える」を教育の基本理念とする。



久留米工業大学
学長補佐(広報委員長)
AI応用研究所 最新技術調査部門担当
工学部 情報ネットワーク工学科
教授 博士(芸術工学)
河野 央 氏



久留米工業大学
教育研究コーディネーター
博士(農学)
八坂 亮祐 氏

「普段からスマートフォンは使っているけど、PCは情報教育の講義以外では使わないという学生が多く、企業からはスキルの不足が指摘されていました。そこでPCを必携化し、講義や予習・復習などで使う環境を整備することで、スキルを向上させるとともに、ITリテラシーを身に付けてもらうと考えました」

WGはリーダーの河野氏を筆頭に、各学科の教授5名と共通教育科の教授1名の計7名で構成。必携化をどのように実現していくか議論した。メンバーの熱意もあって学内のコンセンサスは得られたが、問題となったのがPCの導入と運用だ。「私たちにはPCの調達から販売までを行うノウハウはありませんし、販売後の故障や問い合わせのすべてに対応できるリソースもありません。そこで、一連の作業を外部のパートナーへ委託することにしました」(河野氏)

解決策と効果

実績のあるSCSKの枠組みに乗ることで学生が大いにPCを利用できる環境を実現

WGは複数のベンダーに話を聞いたのち、委託先としてSCSKを選定した。その決め手は、これまで多くの大学で必携PC・推奨PCの導入・運用を手がけてきた実績に加え、学内に常設のサポート窓口(PCサポートセンター)を設け、故障や問い合わせに対応するという提案にあった。「PC必携化は私たちにとって初めての挑戦であり、決して失敗できないというプレッシャーがありました。大学関連の実績が豊富なSCSKに安心して任せられます。また、常設のサポート窓口があれば、対応の一部を任せることができ、教職員への負担を減らすことができます」(河野氏)

必携PCの販売の流れだが、まず合格者に送る入学案内にPCのパンフレットを同封して送付。購入を希望する学生は、SCSKが用意した販売サイトを通して申し込む。その後、入学式のタイミングなどに合わせて学内のサポート窓口で受け取る。ノートPCは価格によって3種類あり、自由に選ぶことができる。特徴的なのは、3種類ともタッチペン入力に対応し、うちの2台は、ノートPCとタブレットの2つのモードを切り替えて

使える「2in1」モデルであるということ。これはクリエイティブな学生に好評なようだ。PCサポートセンターの常駐管理者である教育研究コーディネーターの八坂亮祐氏は「およそ240台、新入学生の6割から7割が大学推奨のPCを購入しています」と語る。

いずれのPCにも全学生が共通で利用するソフト(Microsoft Office、数値解析ソフト、音声編集ソフトなど)と学内無線LANをセットアップし配布する。学部固有のソフトは後日、学生がインストールすることになっており、必要に応じて保証期間の延長や動産保険の付加も可能だ。故障した場合には、PC貸出サービスを利用することもできる。必携PCは学生が自身で用意することも可能だが、その際はPCサポートセンターのサービスは受けられず、セットアップや修理は自身で対応することになる。

サポート窓口は、平日の10時から17時まで。原則、教育研究コーディネーターの八坂氏が常駐し、SCSKの担当者は週1で常駐する。SCSKには必要に応じて電話でアドバイスを求めることもあるという。

「コスト面を考えるとSCSK担当者の常駐は週1にしていますが、学生アルバイトを活用したり、4月や5月の繁忙期は週5にしようなど、状況に合わせて対応いただいています」(河野氏)

必携PCの導入効果だが、WGの狙い通り、学生のPC利用は大いに活発化している。学生が校内のあちこちでPCを使っているのが当たり前となり、プログラムを組む学生、自作PCを組み立てる学生なども出てきた。中でも大きかったのは、コロナ禍において遠隔授業をスムーズに実施できたことだ。

「スタート時こそサポート窓口の前に行列ができましたが、すぐに落ち着きました。PC必携化を行っていなかったら、それこそ調達から始めることになり、動き出すまでにかなりの時間がかかっていたことでしょう」(八坂氏)

WGにとっては、まっさらの状態から必携PCの導入を成功させ、4年にわたって環境を整備できたことが大きな成果だという。河野氏も「PCのカタログ作りから、販売、保守、分割払いの手続き、動産保険など、SCSKの用意したサービスの

枠組みに丸ごと乗っかるだけで対応できました。おかげでほとんど負担なく導入でき、実績あるSCSKに頼んで正解でした」と評価する。

今後の展望

eラーニングの学習履歴データを取得・集約しながら成果を可視化し、授業の内容にフィードバック

今後、久留米工大ではLMS(学習管理システム)を活用し、eラーニングの学習履歴データを取得・集約。その成果を可視化し、授業の内容にフィードバックすることを検討している。河野氏は「これも必携PCを導入したからこそできることです。SCSKには引き続き九州エリアの大学でPC必携化を推進していただき、結果的に調達コストが削減されることを期待しています」と述べ、八坂氏も「多くの大学でサポート窓口を運営するSCSKからは、他の大学での経験をもとにしたアドバイスがいただけるので、非常に助かっています。今後、当大学が目指すAI教育の充実に向け、高スペックのPCの提供も期待しています」と語ってくれた。

久留米工大とSCSKは、今後も連携しながら、学内のPC環境をよりよいものに進化させていくことだろう。

学生からの声



交通機械工学科 自動車コース
行徳 彩花 さん

私は2in1PCを使っており、複雑な数式を使ったレポートを書くときなどに、タブレットモードでペン入力しています。運びやすく電池の持ちもいいので、ストレスなしに使って便利です。USBポートが2つあるのもお気に入りですね。PCサポートセンターには、AIの授業で分析ソフトがトラブルで消えてしまったとき、Zoomの授業で音が出なくなったときなどに助けてもらいました。やはり、身近にサポートの窓口があるのは心強いです。

SCSK担当者からの声



プラットフォーム事業グループ
九州プラットフォーム事業本部
営業第一部
営業課/マネージャー
河内 崇

学生にPCを購入してもらう場合の課題は、生協など大学内にPCを販売する窓口がないと、家電量販店などで各々ばらばらの機種やスペックのPCを購入されることになり、学内システムが求める推奨スペックを満たさなかったり、何か問題が発生した場合の原因究明が難しくなったりするケースが考えられます。また、購入後のサポートもそれぞれの学生が購入した販売店にて受ける必要がありますので、サポートレベルもばらつきが出てしまいます。そのあたりの問題をすべて解決できる弊社のPC販売サービスが久留米工業大学様の求めるものに合致し、ご採用いただけたものと考えております。

- キャンパスPC販売サービス関連記事サイト

SCSKグループ お客様事例

▶URL : <https://www.scsk.jp/case/case-details/202109university/index.html>

SCSK IT Platform Navigator

▶URL : <https://www.scsk.jp/sp/itpnavi/article/2021/09/clientpc.html>

- 本件に関するお問い合わせ先

九州プラットフォーム事業本部
営業第一部

▶Mail : kyushu-info@scsk.jp



SCSK株式会社